

委員派遣実績報告書

令和6年11月15日

米子市議会議長 様

都市経済委員会

委員長 西 野 太 一



委員派遣を行い、所管に属する事務に関する先進地事例について調査を行いましたので、下記のとおり報告します。

記

委員会名	都市経済委員会
期 日	令和6年11月6日から令和6年11月8日まで
視 察 先 及 び 視察内容	○11月6日（水） 山口県周南市 ・徳山駅周辺官民連携管理運営事業について ○11月7日（木） 山口県宇部市 ・UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）と彫刻について ○11月8日（金） 福岡県北九州市 ・魚町サンロード商店街アーケード撤去によるエリアリノベーションについて
参加者名	【委員長】西野太一 【副委員長】吉岡古都（山口県周南市の行政視察のみ参加） 【委員】門脇一男、津田幸一、中田利幸、錦織陽子、森田悟史、森谷司、渡辺穰爾 【随行】議会事務局 議事調査担当事務局長補佐 森井聖太
経 費	590,554円
委 員 会 所 感	別紙のとおり

別 紙

山口県周南市（11月6日）

面積：656.29km²

人口：134,969人

○ 徳山駅周辺官民連携管理運営事業について

(1) 視察の目的

米子駅周辺の広場（公園）と駐車場及び駐輪場は、管理運営を個別に委託しているが、包括的な管理運営にはどのようなメリット、デメリットがあるのか現地で調査するため。

(2) 視察（説明）要旨

周南市立徳山駅前図書館のにぎわいを周辺に波及させるため、徳山駅周辺の施設を一括発注による指定管理にすることを検討した。それまでは施設ごと業務内容ごとに22業務を発注していたが、複数年の一括発注により事務作業が軽減された。さらに街路樹の管理などが必要な時期に迅速になされるようになり維持管理の質も向上した。受付窓口の一元化により住民からも利用しやすくなったとの声が聞かれている。施設の利用数や駐車場収入が増加している。

① 経緯

- 1年目 事業内容の整理
- 2年目 サウンディング
- 3年目 事業内容の確定
- 4年目 事業者確定（公募型プロポーザル）

② 期待する効果

- ア 複数年の一括発注によるもの
効率化と事務手続き経費の削減。
- イ 性能発注によるもの
民間のノウハウを活化し、効率的、効果的な維持管理が可能。
- ウ 指定管理の導入によるもの
受付窓口の利便性向上。
- エ 公募型プロポーザルによるもの
様々な自主事業が開催されている。

③ 令和5年度の実施効果（前年度比）

ア 駅前広場、自由通路、都市公園：2.3倍

利用料金収入：24万円増加

イ 市営駐車場：8,300台増加

利用料金収入：1,000万円増加

④ 今後の展望

再投資によるサービスの向上がエリア価値の向上につながり、さらに関係者の増加につながるというよい循環を期待している。

⑤ 指定管理料

181,625千円（5年間）

(3) 主な質疑応答

Q1：窓口業務も指定管理料に入っているか。

A1：窓口業務、相談、契約手続なども人件費として維持管理費に加えて算出している。

Q2：毎月のヒアリングの項目は。

A2：モニタリング指標：街路樹の剪定、道路の清掃、駐輪場などの状況、許可申請の状況、イベント開催状況。

目標管理（5年間）：イベントの参加者、SNSのフォロワー数、都市公園などの利用件数、団体数。

Q3：南口はどのような方針か。

A3：市街地が鉄道で分断、地下道が暗くて狭いので開放的な空間作りのために南北自由通路を建設したが南側の活性化に至っていない。コンソーシアムは20年後の観光資源になるように、南側についても市場と連携したイベントを企画しているので行政としても支援したい。

Q4：コンソーシアムの構成、地元の業者は入っているか。

A4：トラストパーク、野村緑研、CCC（カルチャーコンビニエンスクラブ）

維持管理はなるべく地元でと発注に明記した。

Q5：にぎわいが一過性にならないような取組は。

A5：イベント開催に際して事業者が地元商店街の協力を仰いだ。地元の関係者をうまく巻き込んでやっていることに感謝している。

Q6：民間に任せているか。

A 6 : 市はモニタリングだけでイベントはあくまで自主事業で。行政が入ると堅苦しくなってしまうので、できるだけ民間でという方針。

Q 7 : 指定管理の仕様について。

A 7 : 維持管理の性能発注は初めてだったので、参考資料としてこれまでのくらいやっていたかをつけた。維持管理について仕様発注的なことはできるだけ避けるように意識した。

Q 8 : 市営駐車場の増収の内訳。

A 8 : 利用料金収入 7, 6 7 0 万円。そのうち 3, 2 1 0 万円市へ納付金。もともと利用料金制の指定管理者制度を敷いていた。

Q 9 : 事業参入意欲を生んだ徳山駅周辺のポテンシャルは。

A 9 : プロポーザルで採択された C C C の意見では、駅のにぎわいを自分たちの手で波及したいという思いがあり、そこにたまたまプロポーザルが目止まった。

Q 10 : 市民の意識への効果のリサーチは。

A 10 : 現在の目標指標のその先の効果として w e l l - b e i n g など検討している。

Q 11 : 滞留時間増加の理由。

A 11 : 蚤の市の時は両方の駐車場満車。

昨年度に比べ、滞在時間増えていると見受けられる。

駐車台数に比べて、収益が増えているから。

駅前図書館だけでなく徳山ベースができた効果も毎週水曜日にキッチンカーなど日常的な取組も増えている。

(4) 視察（説明）要旨に対する委員の考え及び本市の事務事業に参考となる点

徳山駅前図書館のように成功したにぎわい施設があっても、それだけでは、そのにぎわいを周辺に波及させるのは容易ではないということが分かった。その課題解決のために駅周辺施設の維持管理を一括発注することで、事務の負担軽減を実現し、さらに駐車場収益の増加につなげるなど、目に見えた成果が上がっている。特に、毎月のヒアリングでモニタリング指標を確認するなどコミュニケーションを絶やさないようにしつつ、イベントなど自主事業は民間事業者任せすることで、民間活力を最大限に引き出している点など、米子市がこれから官民連携を進める上でとても参考になる事例を学ぶことができた。

山口県宇部市（11月7日）

面積：286.65km²

人口：156,673人

○ UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）と彫刻について

(1) 視察の目的

山口県宇部市、この「彫刻のまち宇部」の歩みは、1961年に現在のUBEビエンナーレへとつながる日本初の野外彫刻展を開催したことに始まる。

戦争で荒廃したまちの復興と、心の豊かさを取り戻そうと願う市民運動を契機として始まったUBEビエンナーレは、まちづくりにアートを取り入れた日本初の先駆的な取組だった。

半世紀以上続く歴史のなかで市内に設置された野外彫刻は200点超。国内屈指のコレクションとしてますます充実し、市街地や公園など市内のいたるところで常設展示された多彩なアートに出会うことができる。

宇部市では、UBEビエンナーレの歴史とともに育まれた彫刻との関わりを市民とまちの財産と位置づけ、ひとづくり・まちづくりに生かす取組を市民とともに推進している。

この先進的な取組を調査・研究し、米子市の中心市街地に設置されている彫刻ロード周辺の活性化や今後の在り方についての参考とする。

(2) 視察（説明）要旨

観光スポーツ文化部文化振興課副課長の越智英和氏より視察項目についてのお話を伺った。

宇部市は明治以降、石炭産業を中心にまちの基盤を築いてきた。戦後は工業都市として発展する一方、その代償として煤塵による大気汚染など環境問題に悩まされることになる。そのなかで生活空間を住みよいものへと変えていこうと「緑化運動」や「花いっぱい運動」が活性化。1958年、花の種子を購入するために集められた市民募金の一部で一体の彫刻が購入され宇部駅（現：宇部新川駅）前の噴水池に設置されると、人々の間で好評を得た。その彫刻こそが、現在まで続く野外彫刻展のきっかけとなった、ファルコネの「ゆあみする女」の複製品だった。

やがて芸術性の高い彫刻を集め、青少年の教育や、若手芸術家の育成にも寄与しようという機運が生まれる。それは市民運動「宇部を彫刻で飾る運動」へと発展し、1961年に、日本初の大規模な野外彫刻展「第

1 回宇部市野外彫刻展」が、ときわ公園を舞台に開催されることとなった。その後、1965年からは現代日本彫刻展、2009年からはUBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）へと名称を変えながらも、世界で最も歴史ある野外彫刻の国際コンクールとして開催を続けてきた。2024年3月には、長期に渡る持続的な開催が公式に認められ、「最も長く続いている野外彫刻展」として、ギネス世界記録に認定された。

(3) 主な質疑応答

Q1：「彫刻のまち宇部」と呼ばれているが、彫刻に着眼した理由は何か。

Q2：「彫刻のまち宇部」と呼ばれるようになったきっかけは何か。

A1・2：戦後、宇部市が工業都市として発展する中で、荒廃したまちの復興と心の豊かさを求めて「緑化運動」や「花いっぱい運動」等の市民運動が起こり、そこから「まちを彫刻で飾る運動」へと発展し、1961年（昭和36年）に「第1回宇部市野外彫刻展」が開催されるに至った。その後、1965年（昭和40年）に「現代日本彫刻展」、2009年（平成21年）に「UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」に名称変更しながらも、60年以上、2年に一度の開催を続けてきており、市内には約200点の彫刻が展示され、まち全体が野外彫刻の美術館となっていることから、「彫刻のまち」と呼ばれている。

Q3：まちづくり、にぎわいづくりに対し彫刻はどのような貢献をしているのか。

A3：市内には、UBEビエンナーレで大賞を受賞した作品等、宇部市の所蔵となった彫刻が各所に設置され、まちの風景に彩りを添えることで、まちの景観の向上や生活空間で芸術を鑑賞できるうまいのあるまちづくりに寄与している。また、市民団体による定期的な彫刻清掃や彫刻ガイドなど、彫刻と関わることで地域への愛着心を深めるとともに、小中学校への彫刻教育を推進することで、シビックプライドの醸成や人材育成に貢献している。

Q4：「彫刻のまち宇部」としての課題は何か。また、課題をどのように解決してきたのか。

Q5：「彫刻のまち宇部」としての今後の目標は何か。

A4・5：「彫刻のまち宇部」として実施している彫刻事業は、UBEビエンナーレの開催だけではなく、企画展の開催、彫刻教育事業の実施、

既存彫刻の維持管理など多岐にわたる。そのため、それぞれに課題があり、個別に問題点を洗い出しながら課題解決に向けて取り組んできた。UBE ビエンナーレに限れば、大きな課題は運営委員会で検討し、方針を決定するのが基本となる。これらのことを踏まえ、現在宇部市では、「UBE ビエンナーレ推進ビジョン（仮）」を策定中であり、ビジョンの中で今後の課題を明確にし、持続可能な彫刻展の在り方を示していく予定である。

Q 6 : 世界的に注目を集めている「UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）」とはどのようなコンクールなのか。

A 6 : 2年に一度、ときわ公園を会場に開催される野外彫刻の国際コンペティション。一次審査は実物の1/10のマケットで行われ、入選作品30点と、その中から実物制作指定作品15点が選ばれる。翌秋には実物15点がときわ公園に設置され、二次審査により各賞が決定、上位2賞は買い上げとなり、宇部市のコレクションとなる。その後、作品は約1年半UBE ビエンナーレ彫刻の丘に展示される。

Q 7 : 「UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）」について、第1回はいつ開催し、開催するきっかけとなったのは何か。また、どのような規模だったのか。

A 7 : UBE ビエンナーレの始まりは、「宇部市野外彫刻展」で、1961年7月18日から9月17日までの約2か月間、当時を代表する彫刻家の作品59点がときわ公園を会場に展示された。きっかけは、戦後のまちの美化と心の豊かさを求めて「緑化運動」や「花いっぱい運動」等の市民運動が起こり、そこから「まちを彫刻で飾る運動」へと発展し、機運が高まったことで彫刻展の開催に至った。

Q 8 : 「UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）」について、そのコンセプトについて伺う。

A 8 : コンセプトについては、彫刻展そのものにコンセプトはなく、強いて言えば、位置づけとして、人々の暮らしと心の豊かさを求めるまちづくり事業として本市独自の文化を築くとともに、国内外のアーティストが創造力を発揮する場、また多様なアートやアーティストに出会うことで、子どもたちが自由な感性や想像力を育む貴重な場としての役割を担っており、現在では、本市の貴重な観光資源として、交流人口の拡大にも寄与している。

Q 9 : これまでの集客状況はどうか。また、その反応・反響はどうか

のか。

A 9 : 過去 17 年を見てみると、来場者は年々増加傾向にあり、第 21 回展（2005 年）の 2 万 5,000 人と比べると、コロナ禍にもかかわらず、前回展（2022 年）は 4 倍の約 10 万人の来場があった。

Q10 : 節目となる 30 回のこのコンクールについて、例年とは規模等の違いがあるのか。

A10 : 開催規模そのものに違いはないが、節目ということでプロモーションに力を入れており、プロポーザルによりオープニングイベントや首都圏での PR、PR 動画の作成などを業務委託している。

Q11 : 「UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）」の今後の開催も含めた将来展望は。

A11 : UBE ビエンナーレは、2024 年（令和 6 年）3 月、「最も長く続いている野外彫刻展」としてギネス世界記録に認定された。今後は、持続可能なコンクールの開催を検討することに加え、彫刻の設置や維持管理についても内容の充実を図りながら、開催を続けていく。

(4) 視察（説明）要旨に対する委員の考え及び本市の事務事業参考となる点

事業規模で比較すれば、本市と宇部市とでは大きな開きがあるものの、彫刻を設置することでまちの風景に彩りを添え、まちの景観の向上や生活空間で芸術を鑑賞できうるおいのあるまちづくりに寄与している点では共通している。

しかし、宇部市では市民団体による定期的な彫刻清掃や彫刻ガイドなど、彫刻と関わることで地域への愛着心を深めるとともに、小中学校への彫刻教育を推進することで、シビックプライドの醸成や人材育成に貢献しており、本市との違いがここにあるように感じる。

例えば、児童を対象とした彫刻ロードでの写生大会や遠足により、彫刻と直接触れ合うことで、豊かな創造力や感性を育むことができる。ときにはアウトリーチによる彫刻教育も考えるべきではないか。

一方で、「歩いて楽しいまちづくり」を実現する観点から、オープニングラリーでもあり、遊歩道でもある彫刻ロードのさらなる活用を考えるとともに、広報にも力を入れ、まずは市民のシビックプライドの醸成を図るべきだろう。

市民みんなで彫刻に触れよう。

市民が歩き集うところでなければ、観光客はやってこない。

福岡県北九州市（11月8日）

○ 魚町サンロード商店街アーケード撤去によるエリアリノベーションについて

(1) 北九州市について

九州の玄関口、官営八幡製鉄所の操業以来、国内有数の産業都市で、古くから石炭、製鉄、海運の分野で日本の近代化を支えてきた。

	北九州市	米子市
人口（人）	908,109	144,142
面積（km ² ）	492.50	132.42
人口密度（人／km ² ）	1,843.9	1,088.5

(2) 視察目的

本市の本通り商店街もアーケード撤去が終わり、法勝寺商店街を含め、にぎわい創出に試行錯誤している状況。

歩いて楽しいまちづくりを目指すのであれば、商店街のにぎわいが不可欠になることから、北九州市の魚町サンロード商店街アーケード撤去によるエリアリノベーションについて、魚町サンロード商店街協同組合理事長の梯輝元氏に御説明いただく。

(3) 事業概要及び視察内容

① 魚町サンロード商店街は小倉北区にある魚町銀天街という目抜き通りの1本隣に位置している。

全長108m、30店舗ほどが並ぶ商店街。一軒の店舗火災をきっかけにアーケード老朽化、維持管理ランニングコストの問題などを話し合い、2015年にアーケード撤去。

② 2016年に国家戦略特区に認定され、道路空間を活用したオープンカフェなどが実施可能となり、にぎわいづくりが可能となった。また、国家戦略特区なので警察協議が厳しく、当初は道路の活用が20時までだったが現在は22時までの営業活用が可能となっている。

③ 商店街で路上結婚式を開催、小倉あかり倶楽部ライトアップウォー

カブル事業など独自のイベント多数開催。

- ④ 魚町サンロードカルチュラタン構想を掲げ、パリセーヌ川左岸5区6区のような若者が集うクリエイティブなカフェや雑貨店のあるにぎわいあふれた街を目指す。
- ⑤ 現地視察では、魚町サンロード商店街協同組合理事長に案内していただき、新たに取り組む現在改装中の屋台村などを見学させていただいた。路面をカラー舗装するなどの工夫が見られた。

(4) 所感及び考察

本市本通り商店街のアーケード撤去後のにぎわいは、撤去前と特に変化がないのが現状である。

歩いて楽しいまちづくりに向けて、法勝寺商店街を含めたにぎわい創出をつくりだすには各店舗の魅力づくりも必要であるが、商店街が理想の構想を掲げ、通行量の目標を設定し、魚町サンロードのような仕掛けづくりが必要であることを学べた。

今回の委員会視察を参考にして、商店街のにぎわい創出、歩いて楽しいまちづくりを構築できるように委員会でも提案していきたいと思う。

都 市 経 済 委 員 会 行 政 視 察 日 程

◎ 視 察 先 及 び 調 査 事 項

- (1) 山口県周南市 徳山駅周辺官民連携管理運営事業について
 - (2) 山口県宇部市 UBEビエンナレ（現代日本彫刻展）と彫刻について
 - (3) 福岡県北九州市 魚町サンロード商店街アーケード撤去によるエリアリノベーションについて
- ◎ 視 察 者 10名（委員：西野委員長、吉岡副委員長、門脇、津田、中田、錦織、森田、森谷、渡辺）〈随行：森井〉

月 日	行 程	備 考
11/6 (水)	8:29 8:34 10:43 11:03 12:01 米子駅＝＝＝＝伯耆大山駅＝＝＝＝岡山駅＝＝＝＝徳山駅 JR 特急やくも 8号 JR 新幹線のぞみ 13号 ◎ 周南市行政視察（午後 1 時から 1 時間 30 分程度） ⅴ 0834-22-8502 【調査内容】 ＊ 徳山駅周辺官民連携管理運営事業について 〈徳山駅周辺泊〉	JR 徳山駅から徒歩 12 分 (担当) 藤井様
11/7 (木)	ホテルロビ－9:30 集合出発 9:59 10:44 12:02 12:55 徳山駅＝＝＝＝新山口駅＝＝＝＝宇部新川駅 (※宇部市議会議会様のマイクロバスでの送迎あり) JR 山陽本線 JR 宇部線 ◎ 宇部市行政視察（午後 1 時 15 分から 1 時間 30 分程度） ⅴ 0836-34-8812 【調査内容】 ＊ UBEビエンナレ（現代日本彫刻展）と彫刻について（現地：ときわ公園内） 15:33 15:44 16:06 16:51 17:03 17:18 宇部新川駅＝＝＝＝宇部駅＝＝＝＝下関駅＝＝＝＝小倉駅 JR 宇部線 JR 山陽本線 JR 山陽本線 〈小倉駅周辺泊〉	(担当) 木村様
11/8 (金)	ホテルロビ－9:30 集合出発 ◎ 北九州市行政視察（午前 10 時から 1 時間 30 分程度） ⅴ 093-582-2632 【調査内容】 ＊ 魚町サンロード商店街アーケード撤去によるエリアリノベーションについて （現地視察あり：北九州市役所から小倉駅方面へ徒歩 9 分） 12:39 14:13 15:13 17:26 17:31 小倉駅＝＝＝＝岡山駅＝＝＝＝伯耆大山駅＝＝＝＝米子駅 JR 新幹線さくら 552号 JR 特急やくも 17号	JR 小倉駅から徒歩 15 分 (担当) 古園様

都市經濟委員會行政視察

令和6年11月6日～令和6年11月8日(2泊3日)

出席議員：西野委員長、門脇委員、津田委員、中田委員、錦織委員、森田委員、森公委員、渡辺委員

吉岡副委員長旅費(別紙)

37,604

市

590, 554

合計	552,950
----	---------

552,950

都市經濟委員會行政視察
山口県周南市

市經濟委員會行政視察

随行者:	JR私戻手数料	220+900=1,120
	宿泊取消料	6,764+2,140=8,904
議 員	27,580 × 1名 =	27,580
随 行		
随 行		
合計		37,604

JR払戻手数料 $220+900=1,120$

JR払戻手数料

$$6,764 + 2,140 = 8,904$$

27,580

$$27,580 \times 1 \text{ 名} =$$

員議

計	37,604
---	--------

行